

## 2007年初頭のごあいさつ

-2007.1.5-

---

謹んで新春をお慶び申し上げますとともに、全ての方々が健やかで、心豊かな2007年でありますことを心からお祈り申し上げます

北アルプスの峰々は、青い空に凜として雄大に聳え、その麓の里山で、日々自然の恵みに感謝しながら、工夫し汗する住民の喜怒哀楽を今日も見守ってくれています。

常々わたしは、公的立場の者は、どんな時代でも、それぞれあたえられた職に私心を捨て、住民の幸せのために計画的に一つひとつを築いていく主体者でなくてはならないと思ってきました。

現在の長野県は、オリンピック後スキー客は県全体で、45%以上も減少を始め、観光や基幹産業の低落が著しく、結果県民所得は、一人当たり30万円も落ちこむ全国でも驚く異常事態です。

まず「格差」をなくすことであります。

長野県には、どこに住んでも30分で高速交通網に接続するという総合交通政策の基本があります。地域格差の解消は、公平な交通網の整備だと考えます。北アルプス・安曇野地域でしたら地域高規格道路松本-糸魚川を一日も早く開通させる事が大切です。

大町から平岩までの44キロの調査路線への格上げと小谷村雨中4キロと新潟根知8キロの整備路線への格上げを今年の6月までには実現したいと各方面と連携しています。私は中央道豊科インターから、いまのオリンピック道路利用でも、35分で白馬村へ入れる現道改良を研究していますが、住民の総意で、もしもの時の医療対応のためにも早期の実現を進めましょう。また工場立地はインターから15以内でないといけないとのデータさえ報告されています。

大北地域は、ここ5年で3%人口が減少、内小谷村は、9.2%の減少、大町市は5.2%の1200名以上の減少です。何とかしなければ大変なことになります。先ず、家計の元である働く場の創出です。再度、培ってきた人の絆をフルに用いて働く場の確保に全力投球です。

さて、ここ数年、地域の特性を考えない理念選考の田中県政に限界を感じて以来、わたしは「自分達の地域は自分達のやる気と本気で築かなければ誰もやってくれない」といろいろ「創る」ことをスタートさせてきました。この曇り空を晴れ空にかえるには、凜とした真剣さしかない気がします。

第一に「誇りを創る」ことであります。

長野県に住み、北アルプスを眺め暮らし、汗することの誇りを持ち続けるために、先ず地域の良さを見つめなおし、それに輝きを増やし、生活環境全体のレベルアップさせることです。

白馬山麓はオリンピックで世界ブランドになりました。今年も多くの東アジアからの観光客が、白馬山麓へ来ていますが、5年前、山田福市郎商工会副会長と2人でソウルのマスコミや国会議員、ジェトロ、旅行会社をこつこつと回ったことから始まりました。時間のかかるものです。

一昨年より、この地の先人が工夫し創造してきた匠や技、逸品を日本に、世界に輝かせるために「北アルプス山麓ブランド」つくりを市町村や経済界の皆さんと進めてきました。ブランドの目きき役には前内閣総理大臣補佐官渡辺元農水省事務次官に就任して頂き、第一回の認定品を今春4月までには世に出したく準備しております。

愚痴から始まるのではなく「この地域の良さ・すごさ」を住む者が認識しあって「誇り」つくりを進めることが何よりと思います。

第二に「安心を創る」ことであります。

一昨年の台風の被害や平成7年の7.11災害の地滑りや増水等からの砂防や治水治山など充実による生活の安心、また脳出血や心臓病のような突発的な病と専門・総合病院を結ぶ緊急システムの確立はまだまだ不十分です。医療改革のとき病院同士の連携など新しい発想が必要です。安心つくりは経済が厳しいだけに大変ですが、向かい合わなければ置いてきぼりを食ってしまいます。

第三に「いきいき文化を創る」ことであります。

昨年は食の安心安全と食育そして農業農村の振興のための県民条例を責任者として制定しました。とりわけ食育問題は、ふるさとの再考と日本型食生活の復活のために総理大臣が先頭に立

って進めようとしています。

去年は、第1回食育フェスティバルの小谷村でご厄介になりました。長野県食育推進会議の会長として心から感謝いたします。食を囲む人たちの笑顔は明るくすばらしい。姫川太鼓や響岳太鼓の心地よい響きとともに味わった「食のすごさ」はこれからの地域づくりのキーワードだと確信いたしました。今年、学校に栄養教師を配置し、本格的に「食育」や郷土食文化再発見を展開していく予定です。

老若男女が四季を通じてスポーツに汗を流し芸術を味わう事は成就社会の一つの姿であります。私はずっと白馬山麓はスポーツが、地域づくりの基本でありたいと白馬新聞や多くの場で主張してきました。

県レベルでは「スポーツ振興のまちづくり条例」を制定していく覚悟です。

一昨年から夏シーズンのサッカーキャンプの聖地として北アルプス山麓をアピールしてきましたが、仕上げの時期に来ている気がします。

地域の宝である白馬高校に体育科や進学コースの設置を含め、地域の大きな協力の輪で、いきいきとしたスポーツ・文化環境を創造していきたいと思えます。

最後に「笑顔づくり」です。笑顔があふれる社会はいいものです。亡き母の口癖は「苦しいときこそ笑わなきゃ」とガンと闘いながらもいつも輝く笑顔で51歳の生涯を精一杯生き貫きました。

親と子の絆さえ不安定で犯罪が増加している今、県民が笑顔のあふれる日々が過ごして頂けるよう、汗しなくてはと思います。

幼き日より不足の中で育てていただきました。それだけに人の絆で働かせていただきありがとうございます。

「草根岩を割り一誠天を創る」の思いを改めて胸に刻み、水のように切れ間なく流れ続けたいと思えます。

この地球に生きる人達全てが、平和で心豊かでない年でありますことをお祈りしご挨拶といたし

ます

「笑顔充ちる ふるさとの夢田 創るのみ」 星辰

2007 年 元旦